

第1学年 算数科学習指導案

児童 1年2組24名
指導者 山影 幸

1 単元名 「ひきざん」(東京書籍 1年②)

2 目標

11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

3 単元について

本単元では、「10 といくつ」という数の見方に着目し、11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え、理解し、計算することができる力を育成する。また、第11単元「たしざん」の学習で身に付けた、未習の計算の仕方について、数の見方を工夫し、既習の計算に帰着して解決する力をさらに伸長させていく。そのため、ブロック操作や図などを用いて計算の仕方を説明する活動を取り入れていく。ブロック操作をしたり、図に表したりして説明することで、問題解決の過程を共有し、次第に念頭で数の操作をイメージして計算することができるようにしていく。

4 児童の実態

授業の様子から、算数の授業を楽しんでいる児童が多くいる。練習問題に取り組む際は、集中して取り組んでおり、できるようになりたいという気持ちを強く感じる。その反面、挙手をして発表をする児童が固定化されている。発表する児童は、友達に伝わるように発表することがまだ難しいため、教師が児童の発表を全体に広げながら授業を進めている。また、友達の発表を繰り返したり、聞いて分かったことを価値付けしたりし、児童の聞く力を育てることも心がけている。算数的活動を多く取り入れながら、児童が自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いて理解したりできるように学習を進めていきたい。

5 指導と評価の計画 (10時間)

時間	ねらい・学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法 (減加法) を理解する。			・態 (ノート分析, 行動観察)
2		・知 (ノート分析, 行動観察)	・思 (ノート分析, 行動観察)	
3 本時	前時までの学習を踏まえ、11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法 (減加法) の理解を確実にする。		○思 (ノート分析, 行動観察)	
4		・知 (ノート分析, 行動観察)		
5	11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法 (減々法) があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。		・思 (ノート分析, 行動観察)	
6		・知 (ノート分析, 行動観察)		
7	減法の計算能力を伸ばす。	・知 (ノート分析, 行動観察)	・思 (ノート分析, 行動観察)	
8				
9				
10	学習内容の定着を確実にするとともに、単元で学習したことのよさを感じ価値付ける。	○知 (ノート分析, 行動観察)	○思 (ノート分析, 行動観察)	○態 (ノート分析, 行動観察)

・指導に生かす評価 ○記録に残す評価

6 本時の指導

(1) 目標

11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法（減加法）の理解を確実にする。

(2) 本時の評価規準

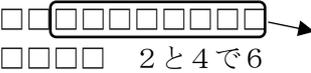
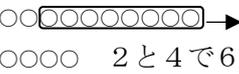
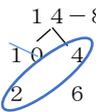
評価の観点	おおむね満足できる状態	努力を要する児童への支援
思考・判断・表現	減数が8～5の場合でも、10のまとまりから1位数をひいて計算すればよいことを考え、説明している。	ブロックを操作する活動を通して、10のまとまりから8をとることに着目させる。

(3) 研究の視点に関わっての工夫

- 「学習の見通し」の場面で、既習の10のまとまりからひいたことを想起させ、4から8はひけないことを確かめ、10から8を引くことに着目させる。
- 「学び合い」の場面で、ブロック操作や図を使いながら説明をし、様々な方法の類似点に気付かせる。

(4) 展開

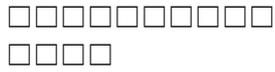
展開	学習内容と活動	・活動への支援（・） 評価【 】 視点◎
つかむ 6分	<p>1 問題を把握する。</p> <p>① 14-8の けいさんのしかたを かんがえましょう。</p> <p>○ブロックを並べる。 ○ばらの4から8をひけないことを確かめる。</p> <p>2 課題を設定する。</p> <p>② ばらから ひけない 14-8の ような けいさんの しかたを かんがえよう。</p>	<p>・10のまとまりの列と、その下に4個並べる。</p>
見通す 5分	<p>3 見通しをもつ。</p> <p>○解決の見通しをもつ。 ・前時では、13-9は10のまとまりから9をひいた。 ・10のまとまりから8をひく。</p> <p>○やり方の見通しをもつ。 ・ブロック ・まる図 ・さくらんぼ計算 ・言葉</p>	<p>◎既習の10のまとまりからひいたことを想起させ、4から8はひけないことを確かめ、10から8を引くことに着目させる。（視点1）</p>
自分の考えをもつ 10分	<p>4 自力解決をする。</p> <p>○ブロックを動かして計算の仕方を考える。</p> <p>○計算の仕方をまる図、さくらんぼ計算、言葉で考えて、ノートにかく。</p>	<p>・ブロックを操作した後、まる図、さくらんぼ計算、言葉で計算の仕方をノートにかかせる。 ・一つできた児童には、他の方法で挑戦させる。</p>

<p>学 び 合 う</p> <p>20 分</p>	<p>5 全体で検討する。</p> <p>① 自分の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック操作  <ul style="list-style-type: none"> ・まる図  <ul style="list-style-type: none"> ・さくらんぼ計算  <ul style="list-style-type: none"> ・言葉 <ol style="list-style-type: none"> ① 4から 8は ひけない。 ② 14を 10と 4に わける。 ③ 10から 8を ひいて 2。 ④ 4と 2で 6。 <p>② 類似点を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答えがどれも6。 ・10のまとまりから8をひいている。 ・ひいて残った2と4をたしている。 <p>6 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>Ⓜばらから ひけないときは、10のまとまりから ひく。</p> </div> <p>7 適用問題を解く。</p> <p>○ 11 - 7の計算をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック ・まる図 ・さくらんぼ計算 ・言葉 	<p>◎ブロック操作や図を使いながら説明をし、様々な方法の類似点に気付かせる。(視点2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減数8をどこからひいているかに気をつけながら発表を聞くように促す。 ・複数の児童に発表させたり、止まった際には続きを友達に発表させたりして、全体でそれぞれの方法について確かめる。 <p>【思・判・表】</p> <p>減数が8～5の場合でも、10のまとまりから1位数をひいて計算すればよいことを考え、説明している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数を抜いた計算の仕方を掲示する。 ・ペアになり、一人は計算の仕方を唱え、もう一人は自分の選んだ方法で計算をする。終わったら交代して行う。
<p>振 り 返 る 4 分</p>	<p>8 学習の振り返りをする。</p> <p>○分かったこと、思ったこと、次にやってみたいことなどを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点を示し、学びの自覚化を促す。

(5) 板書計画

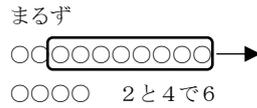
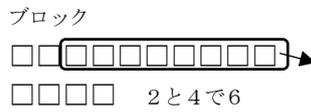
11/10

④ 14-8の けいさんの
しかたを かんがえましょう。

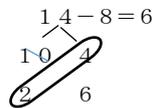


⑤ ・ばらから ひけない。
・13-9みたいに
10のまとまりからひく。

⑥ ばらから ひけない 14-8の ような
けいさんの しかたを かんがえよう。



さくらんぼけいさん



⑦ ばらから ひけないときは、10の
まとまりから ひく。

- ① 4から 8は ひけない。
- ② 14を 10と 4に わける。
- ③ 10から 8を ひいて 2。
- ④ 4と 2で 6。

- 11-7
- ① から は ひけない。
 - ② を と に わける。
 - ③ 10から を ひいて 。
 - ④ と で 。